

あたりまえの「楽しさ」と「安心」を届けてくれるそれが私の補聴器です



よしだ かずたか
吉田 一貴様 (29歳)

- 愛媛県四国中央市在住
- 補聴器装用歴：23年

▶ 左耳に
フォナック社製
耳かけ型を
使用中



聞こえることへの思い

五歳の頃にかかったインフルエンザが原因で、滲出性中耳炎になり、右耳はほとんど聞こえず左耳も難聴で、六歳から左耳に補聴器をつけています。聞こえないことは自分も相手にとっても不便なことだと感じており、私の祖母も難聴があり心配で、えひめ補聴器センターさんを紹介しました。今では祖母も会話がスムーズになり、本当によかったですと思っています。

職場で危険を感じて

最初の補聴器を二十年程使用していましたが、故障して使えなくなり、新しい補聴器を購入する前のつなぎとして、集音器を一年程使いました。しかし、集音器は雑音をよく拾うので会話が聞き取りにくく、職場でフォークリフトが近づいてくる音が聞こえないことが危険だと感じ、新しい補聴器に買い替える為にえひめ補聴器センターさんに来ました。

補聴器の進化に驚き

新しい補聴器は前のものよりかなり小型で目立たなくなりました。以前の補聴器にはなかった機能も増えており、「二十年前でこんなに進化するんだ！」と驚きました。「普段用、仕事用、音楽用」と場面に応じたプログラム設定をしてもらっています。

コミュニケーションがスムーズに

今までは仕事場の機械音が騒がしいため指示を聞くのは難しいと諦めていましたが、新しい補聴器の「仕事用プログラム」を使ってみると指示や伝達事項がちやんと聞き取れ、仕事の効率が格段に上がりました。危険を感じていたフォークリフトの音も聞こえるようになりました。家族とのコミュニケーションも聞き返しが減り、かなりスムーズになりました。「こんなに良くなるならもっと早く買い替えれば良かった！」と思いました。



感染症対策に配慮しインタビューを行いました



▲左耳につけています

補聴器があればなんでもできる

昔から何かしていないと落ち着かない性格で休日はバドミントンや野球チームで練習や試合をしています。一人旅も好きで、コロナ禍の前は青春18きっぷで鹿児島や新潟まで出かけていました。コミュニケーションや、何をするにも聞こえているのが一番いい状態だと思っていて、補聴器で聞こえるからこそ、今までもこれからも基本的に何でもできると思っています。



▲吉田さんが撮影した美しい四国の景色▼



聞こえる良さを知ってほしい

補聴器は自分にとって、「あつて自然な存在」でないと落ち着きません。補聴器は恥ずかしいものではないので聞こえにくいと感じている人は、補聴器をぜひつけて良さを知ってほしいです。つけるのを迷っている人がためらうのは、補聴器の良さがまだ一般的に知られていないことが原因かなと思います。補聴器に対するイメージと周囲の理解がもっと良くなり、眼鏡と同等の感覚になればと思います。「楽しさ」と「安心」を届けてくれる、それが私の補聴器です。

担当者より

新人の私にとって、聞こえにくいということがどれだけ不便なことなのかを切に感じました。私も補聴器販売を通して補聴器をつけて聞こえることの素晴らしさを多くの人に感じていただけたらいいなと思います。これからも頑張ります。(担当：伊藤)

